

藤原師長公謫居（たつきよ）跡

話は4月4日にレポートした「庄内川の花見」から始まる。井戸田村と枇杷島を結ぶ、悲しい恋の伝説へと。

地下鉄「妙音通」2番出口すぐに「藤原師長公謫居跡」がある。いつも北側の1番出口から、ウェルネスはやし鍼灸院に向かっていた。ここは井戸田村、師長公ゆかりの地であった。「妙音通」という地名も、師長公の戒名「妙音院」に由来するという。妙な縁で悲しい恋の伝説に興味をもった。謫居跡の案内には次のように記されていた。



太政大臣藤原師長公は、平清盛の嫌疑を被り、治承3年(1179)11月、井戸田村に流されて来た。出家し仏門に入り、理覚と法名を授かり、花の朝・月の夕べ、東北2キロの丘に登り（今の師長町の丘陵）琵琶を弾じて京を偲んだ。

死後、戒名に妙音院の院号を授かり、これが今の妙音通の地名のおこりである。身辺の世話をした村長横江の娘と契り、師長公が帰洛を許されるとき、別れを惜しんで土器野里（枇杷島）まで送ってきた娘に形見として片貝の琵琶「白菊」を与えた。娘は悲しみのあまり、その形見を抱いて水に身を投じたという。

〈四つの緒の しらべもたえて 三瀬川 沈みはてぬと 君に伝えよ〉

の歌が残されている。

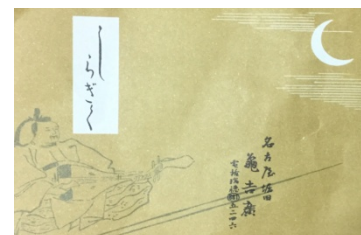
井戸田学区連絡協議会

謫居跡からすこし南に行くと、山崎川に出る。そこには「師長小橋」という小さな橋が架かり、その東には「師長橋」もある。山崎川に沿っていくと、瑞穂競技場あたりは「師長町」、師長公が琵琶を弾じたところだ。レポートで「山崎川をゆく」を連載しつつある



が、「師長小橋」のすこし下流のところが、伊勢湾台風のときに決壊した。名鉄「堀田」駅周辺がかなり浸水した。山崎川には、こんな厳しい歴史もある。

4月5日レポートした「亀吉廣菓舗」さんに師長公の話をすると、かつて「銘菓しらぎく」を作っていたという。愛玩の名器「白菊」を抱き、琵琶を弾じる師長公が描かれている。歴史と伝統ある、この地域の和菓子店にも師長公が引き継がれているのを知り、なんだか感慨深かった。



(2017年4月12日)